令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	広島県	学校名	広島県立日彰館高等学校

人権課題	子供、高齢者、外国人	対象学年・取り扱った教科等	第１～３学年・特別活動	時数等	６時間

目標・人権教育のねらい	・多様性を認め合い、互いの文化に対する理解を深めるとともに、互いの文化を尊重しようとする態度を養う。

実施した内容	・異文化理解教育プログラム「吉舎おもてなしプラン」として、広島大学の留学生を学校に招き、日本の文化紹介や吉舎街歩きガイドツアーで生徒がおもてなしをしたり、留学生から異国の文化を紹介してもらったりした。

工夫した点	（指導上の工夫） ・事前学習として行った「JICA国際協力出前講座」の内容を踏まえて、生徒が留学生との交流の仕方を考えられるように指導を行った。 ・PDCAサイクルを意識した学校行事の活動計画を立てており、当日の活動だけでなく事前の準備や事後の振り返りも重視して取組を行った。本取組についての生徒の振り返りが次の学校行事につながるようにしている。 ・生徒が主体的に取り組むことができるよう、事前に町を歩きながら英語で説明をしたり、吉舎の文化を英語で紹介する練習をしたりした。また、留学生に対する事前の説明会にも生徒の代表が出席し、英語で説明を行った。 ・吉舎の町を紹介するにあたり、神社の神主さんや、地域のことを古くから知っている高齢者の方に話を聞き、文化や地域の方の暮らし等について理解を深める取組を行った。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・総合的な探究の時間における「吉舎の宝」「異文化理解研究」の学習内容と関連付けた指導を行った。

事業成果

・知識的側面：「世界には多様な文化や価値観があることを知っている。」
事業開始時：83.56%⇒事業終了後：95.89%

・価値的・態度的側面：「他の人の喜びや悲しみに共感しようとしている。」
事業開始時：76.71%⇒事業終了後：87.67%

・技能的側面：「自分と異なる価値観を持つ人に対して関わることができる。」
事業開始時：54.79%⇒事業終了後：78.08%

〈事業終了後の生徒の言葉〉
〇聞きたいことを日本語で伝えても相手が一生懸命聞いてくれたのが印象的で、言葉が違っても気持ちは通じると感じました。
〇この経験を通して、自分の視野が広がり、世界にはさまざまな価値観があることを改めて実感しました。
〇積極的にかかわっていくこと、自分の役割を自覚したうえで何ができるのか考えて実行する。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	広島県	学校名	広島県立日彰館高等学校

人権課題	子供、外国人	対象学年・取り扱った教科等	第２学年・特別活動	時数等	１時間

目標・人権教育のねらい	・多様性を認め合い、互いの文化に対する理解を深めるとともに、互いの文化を尊重しようとする態度を養う。
実施した内容	・「吉舎おもてなしプラン」に向けた事前学習として、「JICA国際協力出前講座」を実施した。講座では、講義を通して異文化に対する理解を深めたり、演習を通して異文化に出会ったときの疑似体験を行い異文化を尊重しようとする態度を養ったりした。
工夫した点	（指導上の工夫） ・知識を深めるだけでなく、人権尊重の態度を養うようにするために、講義だけでなく演習も取り入れ、生徒が実感をもって多文化を尊重する意欲を高めることができるように工夫した。 ・文化や考え方の違いは、外国人に対してだけではなく、生徒同士でもあてはまり、お互いを尊重して生活することが大切であることを生徒が実感できるよう工夫して指導を行った。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・歴史総合や地理総合の学習内容とも関連付けて指導を行った。

事業成果

・知識的側面：「世界には多様な文化や価値観があることを知っている。」
事業開始時：83.56%⇒事業終了後：95.89%

・価値的・態度的側面：「他の人の喜びや悲しみに共感しようとしている。」
事業開始時：76.71%⇒事業終了後：87.67%

・技能的側面：「自分と異なる価値観を持つ人に対して関わることができる。」
事業開始時：54.79%⇒事業終了後：78.08%

〈事業終了後の生徒の言葉〉
〇JICAの出前講座で、現地の人たちと協力しながら問題を解決している話が印象に残りました。助けるだけでなく「一緒に考える」姿勢が大切だと感じました。
〇海外の人と話したときにつたない英語でも一生懸命理解しようとしてくれたことが印象に残りました。そこで、言葉よりも「伝えようとする気持ち」が大事だと実感しました。
〇異なる国や文化への理解を深め、視野を広く持って行動することを意識したいです。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	広島県	学校名	広島県立日彰館高等学校

人権課題	障害者	対象学年・取り扱った教科等	第２学年・特別活動	時数等	１時間

目標・人権教育のねらい	・不屈の精神で挑戦を続けるパラリンピック出場選手の競技活動から、挑戦する気持ちや壁を乗り越える方法を学ぶことで、体育祭に向けての練習や本番で粘り強く取り組む力を高める。また、スポーツ文化への多様な関わり方を学ぶ。
実施した内容	・パラスポーツ選手である講師の話を聞くことを通して、日々の努力を積み重ねていくことの重要性について学ぶとともに、パラスポーツや障害者に対する理解を深めた。
工夫した点	（指導上の工夫） ・講演会の中で、スポーツに対する向き合い方を語っていただくとともに、自らの障害に対する思いや葛藤を語っていただくことで、生徒が障害者の生活や思いについてより深く考えることができるようにした。 ・普段からコツコツ努力を積み重ねること、新しいことにも楽しみながらチャレンジしていくこと等、講師が普段から心がけていることを聞くことで、スポーツに限らず、それぞれの生徒が自己実現に向けて自らの在り方を考えることができるようにした。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・本講演会で学んだことを、体育祭に向けての事前練習や体育祭当日に生かした。

事業成果	・知識的側面：「高齢者や障がい者との共生について理解している。」 事業開始時：58.90%⇒事業終了後：87.67% ・価値的・態度的側面：「他人の考え方や立場を尊重しようとしている。」 事業開始時：80.82%⇒事業終了後：94.52% ・技能的側面：「自分と異なる考え方を肯定的に受け止めることができる。」 事業開始時：69.86%⇒事業終了後：76.71% 〈事業終了後の生徒の言葉〉 〇新しいことに挑戦するときは失敗を恐れずにやろうと思ったし、まずは挑戦してみることが大切だと分かった。 〇出来ないことはできる人を見て分析して、何回もやって自分に落とし込む。 〇何事にもとりあえずやってみようというチャレンジ精神を持つこと。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	広島県	学校名	広島県立日彰館高等学校

人権課題	インターネットによる人権侵害	対象学年・取り扱った教科等	第２学年・特別活動	時数等	１時間

目標・人権教育のねらい	・「SNSによる人権侵害」をテーマとして、よりよい人間関係の在り方について学ぶことで、自他を認め、尊重する態度を育成する。
実施した内容	・文化祭に向けた事前学習として、NTTドコモから講師を招いて「スマホ・ネット安全教室」を実施した。
工夫した点	（指導上の工夫） ・普段のスマホやSNSの使い方、SNSを通した人間関係について振り返った後に本講座を行うことで、生徒がより主体的に学習するようにした。 ・本講座を文化祭に向けた事前学習として実施することで、文化祭の準備や当日において生徒が協働して取り組もうとする意欲を高めるようにした。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・学校行事「文化祭」やその後の「体育祭」「吉舎おもてなしプラン」につながるように学習内容を構成している。
事業成果	・知識的側面：「インターネットによる人権侵害について理解している。」 事業開始時：71.23%⇒事業終了後：89.04% ・価値的・態度的側面：「他の人の喜びや悲しみに共感しようとしている。」 事業開始時：76.71%⇒事業終了後：87.67% ・技能的側面：「自分と異なる考え方を肯定的に受け止めることができる。」 事業開始時：69.86%⇒事業終了後：76.71% 〈事業終了後の生徒の言葉〉 〇SNSに発信するときには細かなところまで確認し、個人情報や適切さなどを意識していきたい。 〇スマホを利用する時には、いつでもリスクがつきまとってくるということがわかりました。 〇自分のことではなくても、グループラインなどの使い方や悪口がないか、あったらどう行動するのか考えていきたい。